

File 11 / (有)くまさか

# 表具師の矜持を受け継ぎ、 地域とともに100年移りゆく時代を 柔軟に乗り越なす

経師・表具師とは、掛け軸や屏風の仕立て、障子や襖といった建具の紙張り・張替えなどを手がける職人のこと。住環境が洋風化した今は身近ではないかもしれないが、(有)くまさかの仕事には創業以来の卓越した確かな技術が今もしっかり息づいている。熊坂 創社長と母の熊坂 知子会長にお話をうかがった。



## Profile

**熊坂 知子** (くまさか ともこ)  
取締役会長

1946年、船橋市生まれ。1970年、2代目芳夫氏と結婚。1991年、芳夫氏死去に伴い代表取締役社長就任。2001年、取締役会長。趣味はシャソソで現在も年に2回はステージに立つ。

**熊坂 創** (くまさか はじめ)  
代表取締役社長

1973年、さいたま市(旧浦和市)生まれ。東洋大学経営学部を卒業後、(有)熊坂表具店に入社。2001年、代表取締役社長就任。1級技能士(表装・内装仕上げ施工)などを保有し、技能検定委員などを務める。

## 「文雅堂」の名に込められた歴史 創業時から地域に根差した商いを

福島の松川町(現・福島市)から埼玉に出てきた祖父・熊坂 与七は県内で経師として修業を積み、大正から昭和に改元されたところに創業しました。昭和100年にあたる今年、創業100年を迎える(有)くまさか。当初は浦和橋のあたりに店を構えましたが、ほどなくして現在の場所に移転。以来、ずっとこの地で商いをしています。

うちには「文雅堂」という屋号がありますが、かつて「堂」の付く経師屋は県内でも3軒ほどといい、いずれも勝海舟が名付け



屋号「文雅堂」は職人による丁寧な仕事の象徴でもある

親だという都市伝説のような話が伝わっています。昔は経師のように「師」の付く職人だけが座敷に上がることを許されたといいますが、あながち嘘ではないかもしれません(笑)。

祖父には、ご近所の方が亡くなったとき駆けつけて勝手にその方の家に上がり込み、無償で障子を張り替えた、というエピソードもあります。弔問客を迎える空間の設えまで家族は手が回らなろうと先回りしたのでしょうか、職人魂とともに商売をやらせてもらっている地元への感謝が感じられる話です。

## 激動の昭和とともに生き 表具屋として商売を広げた2代目

昭和45年に父・芳夫が2代目として与七の跡を継ぎ、表具店を開業しました。父は県立浦和高校卒のインテリながら、能楽に親しむなど多才な人でした。敬虔なクリスチャンでもあり、その縁で母と結婚。当時は職人さんたちと一緒に食卓を囲むことが当たり前で、母は毎日10人分以上の食事の支度に追われたそうです。高度経済成長と住環境の洋風化の波に乗り、壁紙や絨毯など経師の技術を生かした丁寧できれいな施工が評判で、順調に表具店として商売を広げていきました。

ところが平成に入って間もなく父が病に倒れ、あっけなく他界。高校2年生の私を筆頭に5人の子どもたちを抱え、父の跡を継いで社長になった母の苦労は並大抵のものではありませんでした。それでも祖父と父が地域に根差し培ってきた信用のおかげでパブル崩壊なども何とか切り抜け、多能工の職人さんにも恵まれてリフォームも手がけるようになりました。

## 皆の「幸せ」を目指して 職人目線と経営者としての視点を

必死に家業を守る母の背中を見て、私も早く一人前の職人になりたいという一心で、高校生のころから手伝い、大学時代は週3日アルバイトに入り、掃除と刃物砥ぎに明け暮れる日もありました。無我夢中で5年ほど経ったころ、ある人に言われた「あなたはスーツを着てもいいのよ」との言葉に、大学で経営学を学んだこともあり、自分は職人であるだけではなく経営者でもあるとあらためて気がきました。

社長就任6年後の2007年に社名を(有)くまさかに変更しました。コロナ禍では、職人とネット会議やSNSなどをフル活用して建設業ながらもテレワークを実現し、まだまだやれることは多いと実感しました。現在は創業以来受け継がれてきた技術を生かした住宅や店舗のリフォームをはじめ、リノベーションも多く手がけています。業界を担う一員として、社会に蔓延している「安ければいい」を払しょくし、職人の人件費の適正な向上を目指していきたいですね。

私は「幸せ」という言葉が大好きなんです。まず私と家族が幸せを感じなければ、社員・地域に愛されること、社会へ貢献することを謳っても、絵空事になりかねない。家業を継いで四半世紀の実



代々の職人によって繰り返し繊細に調整され、木製の台に艶が出るほど使い込まれた鉋



長い年月のうちに砥がれ続けて小さくなったのこぎりを愛おしそうに持つ熊坂社長

感です。次の時代につなげていくためには、「継ぎたい」「あってほしい」と思われる会社に育て上げる。そのためには先達を見習い、私も業態にこだわらずに次の波を柔軟に乗り越えたいと思います。